

Press release  
報道関係者各位

2024年1月吉日  
海人写真家 古谷千佳子

## おかげさまで30周年、海人写真家 古谷千佳子 写真企画展「Live in the sea 海に生きる」開催のご案内

沖縄を拠点に活動している写真家・古谷千佳子の写真企画展

「Live in the sea 海に生きる」では、1990年代からの沖縄や三重県の志摩半島、石川県輪島市など、全国各地で撮影した貴重な写真を一堂に展示します。

古谷は、沖縄の海人の「職人技」に導かれて移住したと言います。海に潜り、手モリ1本、素潜りでタコを仕留めるタコとり名人や、集団で行う追い込み漁など、沖縄の伝統漁船に乗り込み、撮影を続けました。そして母となり、女性としての海の先輩である「海女さん」の撮影を始めた。「追い求める被写体は、自分のなりた姿だった」と話す古谷は、高齢化によりオジィ海人たちが海からあがり、サンゴの白化現象や磯焼けによる漁場の環境が悪化する中で、写真が撮れなくなったと言います。

そんな中、希望の光が差し込んできました。人の手が加わることで生物多様性が高くなった沿岸海域「里海」。恩納村漁協が中心となって活動している「ハニー&コーラル」。メーテルリンクの青い鳥のように「大切なものがこんなに近くにあった」と気付かされた。全国・世界の海は繋がっており、沖縄に住む者が、海・自然との関わりを改めて感じられる写真企画展にしたいと思っております。

■会期中には「写真展開催記念・講演会&トークセッションショー  
～沖縄の海人・全国の海女の写真から「里海」の世界を見つめる～」を開催します。

モデレーターに里海の第一人者である鹿熊信一郎先生、ゲストとして志摩半島の海女・山下真千代さんをお招きします。生産者である恩納村漁業協同組合参事、仲村秀樹氏、生産者と消費者をつなぐ（株）井ゲタ竹内・竹内周常務の登壇により、海人写真家古谷千佳子が撮影してきた漁場を通して「里海」の世界を語り合います。沖縄県が世界に誇るべきサンゴ礁の海で展開される、未来を紡ぐ活動を紹介いたします。

令和6年1月に能登半島地震により被災した石川県輪島市は、古谷が力を入れて撮影・取材のために訪れた地域であり、フライヤー・DMに使用された写真の海女も被災し避難生活を送っております。個人で支援できることは限られておりますため、日本赤十字社などによる義援金窓口の紹介とともに、石川県輪島市の現況などを発信するコーナーを設けます。

■企画展名 : 「Live in the sea 海に生きる」古谷千佳子写真企画展

■開催期間 : 2024年1月27日(土)～4月7日(日) 10:00～18:00  
入場無料/会期中無休

■会場 : ザ・ムーンビーチ ミュージアムリゾート 1F  
ムーン シーサイド ギャラリー

〒904-0414 沖縄県国頭郡恩納村字前兼久1203

作品点数 : 150点以上。会期中、何度もお楽しみいただけるよう、展示替え・追加展示あり。最終的に200作品展示予定

#### ■古谷千佳子プロフィール

東京生まれ、沖縄在住。命と向き合い、海で仕事をする沖縄の海人に惹かれ、20代で沖縄に移住。潜水漁業などの海の仕事に就いた後、写真家となる。

沖縄の伝統漁業、海辺の暮らしの撮影を続け「情熱大陸」で海人写真家として紹介されたほか、様々なテレビ番組でドキュメントされる。2003年より海女の撮影を開始。2013年より沖縄発祥の伝統空手(古武道)の世界に飛び込み、空手歴10年、現在4段。海人、海女、武道家などの「技」の世界から「人間と自然」について、切り込んだ取材活動を続けている。

◎著書 : 「私は海人写真家 古谷千佳子」

写真集 : 「たからのうみの、たからもの」 「志摩半島の海女」ほか

#### ■取材の申し込み・お問い合わせ先

メールアドレス : [info@chikakofuruya.com](mailto:info@chikakofuruya.com)

携帯電話 : 090-3070-8789 までお願いします。

【発信元】チカ・コーポレーション 古谷千佳子  
沖縄県中頭郡読谷村大木357-2-202